

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170500252		
法人名	有限会社 牧瀬工業		
事業所名	グループホーム こころ		
所在地	伊万里市二里町中里甲97番地 (電話) 0955-20-4556		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 20年7月24日	評価確定日	平成 20年11月28日

【情報提供票より】(平成20年6月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 6 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 6 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋瓦葺	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	19,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	250 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月11日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 堀田病院、医療法人 山元記念病院、ふくだ歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、伊万里市の中心部から車で5分程度の田園地域の中にあり、木造で和風の空間を多く取り入れ、静かで落ち着いた環境である。また、平屋建ての2ユニットの造りは、人権の尊厳とプライバシーが十分配慮されているとともに、各ユニットの入居者が自由に交流できる環境になっている。その中で、入居者の高齢化による終末ケアの問題にも取り組んでいる。ホームの運営理念である「入居者がごく普通に自分の家で過ごしているような安心感と、利用者と利用者の家族の人生の過程を尊重し、人の尊厳を大切に。」が実践され、入居者の笑顔とスタッフの笑顔、そして明るい雰囲気が家庭的でなごやかな生活をつくりだしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価の中で「地域とのつきあい」「同業者との交流を通じた向上」「馴染みながらのサービス利用」「事業所の多機能を活かした支援」「重度化や終末期に向けた方針の共有」について改善項目であったが、すべての項目について改善され前向きに取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員とも自己評価について職員会議で協議を行い、意義を理解し、改善点について職員全体で考え、サービスの改善に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの状況、自己評価の説明、外部評価の結果などについて協議し、前回の外部評価にあった改善項目について前向きに取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>以前より意見箱を玄関に置いているが、これまで投書はあっていない。家族等の面会時に職員が入居者の話をし、要望等も聴き、支援に結び付けている。また、運営推進会議で出された意見や要望は職員全体で協議し、サービス向上に活かしている。今後、多くの入居者の家族の参加のもとでの活発な意見交換により、より一層サービスの向上が図られるよう取組みを期待する。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の一員として、清掃活動や町内の花火大会、地域公民館活動などの行事に積極的に参加している。また、地元小学校児童らとの暑中見舞いはがきの交換や、市内の福祉まつりに入居者と職員と一緒に作成した作品も出展するなど、地域との付き合いを大切にしている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	善い事は循環するという「善の循環」の社訓を基に、入居者・職員が互いに支え合うという、家庭的な雰囲気がうかがえる。また、理念には地域住民との交流の精神を大切にし、多様な取り組みを実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼、職員会議及び勉強会などで理念を再確認し、それを日々の業務に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	前回の評価を見直し、改善を進めている。 地域の一員として、清掃活動や町内の花火大会、地域公民館活動などの行事に積極的に参加している。また、地元小学校児童との暑中見舞はがきの交換や、市内の福祉まつりに入居者と職員と一緒に作成した作品も出展している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員会議で協議を行い意義を理解し、自己評価や外部評価での改善点についても職員全体で考え、サービスの改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、およそ2ヶ月に1回開催されており、そこで出された意見等は職員全体で話し合い、サービスの向上に活かしている。しかし、運営推進会議への入居者の家族の参加状況が一部の家族に偏っている。	○	多くの入居者の家族の参加のもとでの活発な意見交換により、より一層サービスの向上が図られるよう、利用者の家族参加の取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政機関に施設から積極的に出向き、相談や連絡調整、情報交換などを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な「こころ新聞」での報告、写真や手紙の郵送のほか、面会の際に近況報告など家族との関係を密に行っている。また、金銭管理は金銭出納帳を定期的に家族に報告をし、確認のサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置している意見箱、運営推進会議での意見及び面会時での家族の要望などを職員会議で協議し、よりよい運営につなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員全員が入居者の心身の状態や性格を考慮し支援を行うとともに、担当制を設けて利用者の個別的な支援ができるよう配慮している。また、離職の際は、入居者の動揺を最小限に抑えるよう入居者に合わせダメージを防ぐ工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修案内は朝礼やスタッフルームに掲示して職員に周知し研修を受ける機会を確保している。また、内部研修も実施し、外部研修参加者や職員が講師となりスキルアップに努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前回の評価を見直し、改善を進めている。同業者同士で勉強会の開催や情報の共有等を行い、互いに質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	前回の評価を見直し、改善を進めている。 入居希望者がサービス利用に疑問を感じる場合は、家族の理解を得て体験利用を実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から手芸、編み物、調理法など学んだり、職員と入居者の支え合いや入居者同士の支え合いなど、お互いを尊重した支え合う関係づくりに取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話や表情、行動などで希望や意向の把握に努め、受診帰りの食事、入居者の友人宅訪問、墓参りなどスタッフが同行し支援されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者のできること、できないこと等を詳しくアセスメントし、より良いケアができるように職員全員で話し合い、ケアマネジャーが中心となり介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間に応じてサービス評価を行い、特に状態の変化等のため見直しが必要な場合は、迅速に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	前回の評価を見直し、改善を進めている。 入居者が通院のための外出支援等や同一敷地内にある「デイサービスこころ」との利用者相互の交流を行い、多機能性を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ病院への受診支援を行い、主治医との連絡調整も密にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	前回の評価を見直し、改善を進めている。 重度化や終末期ケアに向けた方針を共有し、病状により終末期を受け入れている。また、重度化した場合はその都度家族に連絡し支援について話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会や職員会議等で話し合い、名前の呼び方やあいさつなどに心を配り、入居者ひとり一人の人権を尊重した介護を実践している。また、個人のファイル等も整理整頓されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心ではなく、入居者中心を心がけ、入居者の生活リズムを崩さないよう配慮し、親身になって話を聴くよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲がわくように、見た目や盛り付け、硬さや形状に配慮し、入居者と職員と一緒に食事の献立を考えたり、調理をしたり、食事をしたり、後片付けまで楽しみながらできるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日、入居者の入りたい時間帯に合わせてゆっくり一日の疲れを癒してもらい、清潔に保てるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の能力を尊重し、手芸、編み物、ピアノ演奏など入居者が好きなこと、興味のあることを理解し、入居者が望むことができる限り支援できるよう取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や畑の水まき、ドライブ等入居者の希望やその時の状況に合わせた個別の支援を実践している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関ともに鍵をかけず、外出願望のある入居者の行動を職員が把握し、外出の際は職員が同行し自由に外出ができるような支援を実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中及び夜間を想定した避難訓練を、地域の人々や消防関係者と一緒に、定期的実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量を毎日記録し状態の把握に努めている。また、同一敷地内の「デイサービスこころ」の栄養士にアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に植木を置いたり、市内の福祉まつりへの出展作品を飾ったり、入居者休憩用の長いすを置いている。浴室は家庭用浴槽を使用し生活感を取り入れているほか、共有空間は清掃が行き届き、清潔感のある環境で居心地よく過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に入居者が使い慣れた、テレビ、タンス、冷蔵庫、食器などや仏壇も持参できるようになっており、入居者が安心して居心地よく過ごせるよう工夫されている。		